

静岡陸上競技協会自作陸上競技運営ソフトウェア

簡易操作マニュアル

静岡陸上競技協会 永田 勝久

2015年11月改訂

2016年6月一部改訂

2017年5月一部訂正

1 このソフトウェアでできること

- (1)簡易プログラム原稿の作成
- (2)フィールド記録記入用紙作成
- (3)写真判定装置からのトラック記録の取込と手入力
- (4)トラック競技予選から準決勝、決勝への自動番組編成
- (5)フィールド記録の手入力（最高記録、公認記録、順位）
別エクセルシートで全試技を手入力して、それを取り込む
- (6)競技別結果のプリントアウト
- (7)公認申請用記録一覧表の作成、公認用電子申請用ファイルの作成
- (8)新記録等の自動判定
- (9)チーム別エントリー、結果一覧のプリントアウト
- (10)インターネット用ファイルとテキスト形式ファイルの出力
- (11)賞状、記録証のプリントアウト
- (12)部門別順位の自動決定
- (13)タイムレース決勝の順位自動決定

2 新しい競技会ファイルの作成

このソフトウェアを立ち上げると、新しい競技会データと既存の競技会データの選択画面が表示される。新しい競技会データが選択されていることを確認してOKをクリックすると、フォルダとファイル名の入力画面になる。どのようなフォルダにしてどのようなファイル名にするかを決めるが、とりあえず適当なファイル名(例 test1 等)にすると、新しい競技会ファイルが出来上がる。

ここで設定→競技会の設定をクリックし、必要項目を入力する。競技日は一日だけなら開始日のみを入力すれば良い。ここから先はエントリーの作成であるが、それにはいくつかの方法がある。大きく分けると外部データを読み込む方式と、手作業でエントリーを作成する方法とがある。

3 エントリーデータの作成

(1)外部データの読込

エクセル等でエントリーデータを作成し、それをCSV形式（各項目をコンマで区切ったデー

タ形式でエクセルやアクセスで作成したデータはこの形式で保存ができる)にしたものを読み込む。項目は以下に示す順序にする。

部門名 (男子等), 空白, 種目名(100m 等), 組 (フィールドの場合やトラックで決勝一組の場合にはすべて 1), レーン (フィールドの場合は試技順), 空白, ゼッケン番号 (数字 5 ケタ以内で空白でも可能), 氏名, カガナ (空白でも良い), 学年 (2 ケタなので年齢でも良く空白でも良い), 所属, 所属カ (空白でも良い), 県名 (空白でも良い) である。必須でない部分でデータがない場合は空白とする。リレーの場合には 6 人等のエントリーがあるので、その場合には同じ組とレーンで 6 行のデータを作成する。

印刷業者の中には、依頼をしておくで個票からプログラム作成をした後に業者が入力したこの形式のデータを提供してくれる業者もある。

作成した競技会ファイルの中で、特別処理→CSV データインポートをクリックし、用意したエントリーの CSV ファイルを指定すれば外部データを読み込むことができる。しかしこのままではトラックがすべて最終ラウンドに取り込まれているので、予選決勝を行わない記録会以外はそのまま使うことはできない。記録会等ですべて最終ラウンドでもラウンド名がふさわしくない場合には、タイムスというように表記にすることもできる。その場合にはエントリーの種目を選んで右クリックし種目設定を左クリックして現れる画面で変更することができる。この画面では予選、準決勝などのラウンド設定をすることができ、予選ラウンドから行う場合には最初のラウンドに組数、レーン数、通過基準等を入力する。最初のラウンドに組数、レーン数を入れて再度外部データを読み込めば、最初のラウンドにエントリーを取込むことができる。その場合にはすでに最終ラウンドの組数やレーン数を正規の状態にすることや、最終ラウンドのエントリーデータを削除しなければならない。

このままでも競技を行うことはできるが、エントリーデータは単に入っているだけで、氏名等が間違っている場合には、エントリーしてある種目すべてを修正する必要がある。またリレーで最初のエントリーに入っていないが他の種目にエントリーされている競技者を入れることが面倒である。そこで競技者マスタを作成し、そこに競技者データを保管しておき、ゼッケンナンバーで氏名等を引く方法がある。

追加→競技者マスタをクリックしここで例えば男子のマスタと女子のマスタを作成する。作成した後に種目設定で男子の種目は競技者マスタを男子使用、女子の種目は競技者マスタ女子を使用という設定を行う。設定した後に再度外部データを読み込めば競技者マスタからゼッケンナンバーを引く形のデータになる。このようにすればもし氏名等の誤りがあればマスタを修正するだけで全てのエントリーデータが変更でき、リレーで最初のエントリーに入っていない競技者を走らせる場合にもナンバーを入力することで氏名等を表示させることができる。

(2)手作業でエントリーを行う方法

前記のやり方で競技者マスタを作成し、種目を追加→種目をクリックして作成しておく。各種目の設定で作成した競技者マスタを使用するようにする。競技者マスタにエクセル等で作成したナンバー、氏名等をコピーして貼り付ける。その後に各種目のエントリーでナンバーを入力すれ

ば、競技者マスタから氏名等を引くことができエントリーが完成する。

(3)リレーの走順

リレーの走順はリレーのエントリー画面からチーム名にカーソルを持ってきて、順位的位置に走順を入力することや、順番に>をクリックすることで設定することができる。

また最初のリレーエントリーにない競技者が走る場合には、競技者マスタを使っている場合には、No にナンバーを入力すれば競技者が表示される。競技者マスタを使っていない場合には氏名等を直接入力するか他の種目のエントリーからコピー貼り付けをすることもできる。

4 各種設定

(1) フォルダ設定

ツール→基本設定→フォルダでデータの初期フォルダ設定と、賞状・記録証の使用フォルダとファイルを設定する。

(2)種目の表示順序変更

設定→種目の表示順序変更をクリックし、現在の順序の中で先に表示したいものを選び、↓で選択種目に入れる。ここで順番を決めておけばプログラム作成や公認記録申請用一覧表作成をその順番で行うことができ、その後の作業が楽になる。

(3)データ一括クリア

競技会は毎年同じようなパターンで行うことが多い。昨年のファイルをコピーして、データ一括クリアすれば、設定が楽になる。ツール→データ一括クリアをクリックし、オプションを選択して、種目を選択して未選択種目の中でクリアしたい種目を選び、↓で選択種目に入れる。その後OKをクリックするとデータがクリアされるが、オプションで種目ごと削除を選んでおくと種目そのものが消えてしまうので注意する。

(4)データベースの最適化

このデータはその性質上操作を続けると少しずつデータが大きくなる。そのため競技会が終了後に、ツール→データベースの最適化をクリックする。この操作でデータは小さくなるが、別のパソコンからネットワークで同じファイルを使っているとエラーが発生するので、この作業は他のパソコンからのアクセスを切ってから行う必要がある。

5 各操作方法

(1)簡易プログラム原稿の作成

競技会ファイルが完成した状態で、ツール→プログラム原稿作成→事前プログラムの場合にはプログラム、結果入力後の結果が記録されたものを作成したい場合にはディリープロを選択し、各種のオプションを選択した後で、種目選択を行う。

未選択種目の中でプログラムを作成したいものを選び、↓で選択種目に入れる。ここで入れる順番を変えればその順番でプログラム原稿が出来上がる。

OKをクリックするとひとつ前の画面に戻り、ここで出力をクリックすると保存するフォルダやファイル名を聞いてくるので、必要なフォルダやファイル名を指示すると、ワード形式で保存される。ここでファイルを開いてプリントアウトすることもできるが、このファイルを別なところに移動してプリントアウトすることもできる。

ワード文書なので当然ここで一部を書き直して保存やプリントアウトすることもできる。

(2)フィールド記録記入用紙作成

競技会ファイルが完成した状態で、ツール→フィールド記録用紙→種目を選択するかフィールド種目全部にして各種オプションを選択する。ここで出力をクリックすると保存するフォルダやファイル名を聞いてくるので、必要なフォルダやファイル名を指示すると、エクセル形式で保存される。ここでファイルを開いてプリントアウトすることもでき、このファイルを別なところに移動してプリントアウトすることもできる。

エクセル形式なので当然ここで一部を書き直して保存やプリントアウトすることもできる。

(3)写真判定装置からのトラック記録の取込と手入力

写真判定装置とRS232Cクロスケーブルで接続する。判定機→順序設定で順序を設定するか競技時間を設定しておいて時間順ソートを行うこともできる。

次に判定機→判定機設定で相当の判定機を選択する。最後に判定機→接続を行えば写真判定装置から自動的にデータを取込むことができる。風力に関しては、写真判定装置と風力計が接続されている場合には自動的に取り込まれるが、接続されていない場合には手で入力する。

データを受信すると自動的に次の種目や組に取込順序が移動するが、もしトラブル等が発生して取込状態を変更する必要がある場合には、判定機→データ取得状況紹介をクリックし強制的に受信済にするか受信済を解除することで、次から正規の受信状態にすることができる。

手入力を行う場合には、順位順にレーンを入力し、記録を入力すれば入力が完了するが、間違えて同じレーンを入力した場合には警告が出される。記録入力は分や秒の境のドットは入力する必要がなく、自動的に表示される。また記録入力においては秒単位まで同じ場合には、秒以下だけ入力すれば済むようになっている。

(4)トラック競技予選から準決勝、決勝への自動番組編成

トラックの予選から準決勝、決勝等の進出条件が設定されており、トラックの記録入力が完了すれば自動的に番組編成ができる。前ラウンドの記録入力画面で自動版編をクリックし、どのラウンドの番組編成かを選択し、資料出力をクリックするとラウンド進出者やそれ以外の競技者の順位や記録等がプリントアウトされる。

番組実行をクリックすると自動的に番組編成が実行され、次のラウンドのエントリーリストになる。これで印刷をクリックしスタートリストが選択されていることを確認すれば良いが、ここ

で重複チェックという機能がある。これを使ってプリントアウトすれば、準決勝等で同一組に同一チームが入っている場合には警告を出してくれる。入れ替えたい場合にはスタートリスト画面で変更すればどのようにも変更することができる。

(5) フィールド記録の手入力（最高記録、公認記録、順位、全試技入力）

該当種目を選択して最高記録を入力する。風が関係する走幅跳や三段跳は風力を入力し、風が2mを超える場合で、公認の試技があればその記録と風力も入力する。全試技の中に公認の記録がない場合には、公認記録の欄に0（ゼロ）と入力する。記録も風も小数点のドット入力は不要で自動的に小数点が付けられる。自動順位付け機能もあり走高跳や棒高跳以外は自動順位付けを行い、最高記録で同順位の場合にセカンド記録を確認して正式な順位に修正することもできる。

全試技を入力したい場合には、特別処理→フィールド入力 Excel シート出力をクリックすると、全試技を入力できるシートが作成されるので、これを使用して入力する。このシートはマクロを使用しているので、マクロが可能な環境にしておく必要がある。このシートは試技を入力することで、順位を自動的に決定できるので、パソコンと人員に余裕がある場合には、フィールド競技の現地入力も可能である。完成したシートを保存しておき、特別処理→フィールド入力 Excel シート読込を行うと、このシートのデータを取り込むことができる。この全試技入力の操作方法は「10 フィールド入力シートの使い方」に記す。

(6) 競技別結果のプリントアウト

必要な競技結果が入力された状態で、トラック記録の入力画面や、フィールド入力画面から、印刷をクリックして競技結果を選択して、各種オプションを選択して印刷をクリックすれば競技結果がプリントアウトできる。

(7) 公認申請用記録一覧表の作成

競技結果が入力された状態で、ツール→記録一覧表出力→出力する一覧表が決勝や上位記録だけなのか、全部の記録なのかを選択し、オプションを選択した後で種目をクリックする。

未選択種目の中で一覧表を作成したいものを選び、↓で選択種目に入れる。ここで入れる順番を変えればその順番で一覧表が出来上がる。

OKをクリックするとひとつ前の画面に戻るので、ここで出力をクリックすると保存するフォルダやファイル名を聞いてくるので、必要なフォルダやファイル名を指示すると、エクセル形式で保存される。ここでファイルを開いてプリントアウトすることもでき、このファイルを別なところへ移動してプリントアウトすることもできる。

エクセル形式なので当然ここで一部を書き直して保存やプリントアウトすることもできる。

記録の電子電子申請の方法については、後の「6 公認記録電子申請の方法」に記す。

(8) 新記録等の自動判定

追加→大会記録マスタで大会記録等の新記録を設定することで新記録やタイ記録の自動検出を

することができる。新記録だけでなく、全国大会の標準記録等を入れて、標準記録突破者を表示することもできる。記録のみを入力してそれ以外は空欄でも良い。

(9)所属別エントリー、結果一覧のプリントアウト

競技結果が入力された状態で、ツール→所属別出力→結果か、エントリーかを選択し、所属を選択した後に印刷かファイル出力かをクリックする。ファイル出力をした場合にはワード形式のファイルが出来上がる。

(10)インターネット用ファイルとテキスト形式ファイルの出力

競技結果が入力された状態で、ツール→HTML出力→出力内容やオプションを選択し、種目をクリックする。

未選択種目の中でインターネット用のファイルを作成したいものを選び、↓で選択種目に入れる。ここで入れる順番を変えればその順番でインターネット用のファイルが出来上がる。

OKをクリックするとひとつ前の画面に戻り、ここで出力をクリックすると保存するフォルダやファイル名を聞いてくるので、必要なフォルダやファイル名を指示すると、HTML形式で保存される。これをインターネットのホームページに掲載すればインターネットで閲覧できるようになる。

競技結果が入力された状態で、特別処理→CSVデータエクスポート→出力内容やオプションを選択し、種目をクリックする。

未選択種目の中で一覧表を作成したいものを選び、↓で選択種目に入れる。ここで入れる順番を変えればその順番でCSVデータが出来上がる。

OKをクリックするとひとつ前の画面に戻り、ここで出力をクリックすると保存するフォルダやファイル名を聞いてくるので、必要なフォルダやファイル名を指示すると、CSVデータファイル形式で保存され、他のソフト(エクセルやアクセス等)で使用できるデータになる。

どちらも出力内容をスタートリストにすれば、スタートリストの出力もできる。

(11) 賞状、記録証のプリントアウト

賞状や記録証の形式は競技会別にすべて異なるため、このソフトウェアをインストールして出来上がるアクセスのファイル(kirokusho.mdb)を参考にしてレポートを作成する。前記各種設定に記したように、設定→フォルダで記録証・賞状のフォルダとファイル名を選択しておく。

次に印刷→記録証で印刷をすれば記録証や賞状がプリントアウトできる。賞状はどの順位まで出すかをアクセスで設定しておけば、その順位までプリントアウトすることができる。また特定の一人だけの記録証や賞状をプリントアウトしたい場合には、記録入力画面で必要な競技者の行にカーソルを置いた状態で、右クリックして記録証を左クリックすれば必要な一人だけの記録証や賞状をプリントアウトできる。

(12)部門別順位の自動決定

参加人数が少ない場合には、別に順位を付ける必要のある部門（カテゴリーが異なる男女や学年別等）を同時に競技させる場合がある。この場合にエントリーで集計部門にその部門を入力することで、結果のプリントアウトの際に自動的に部門別の順位を付けることができる。比較的参加人数が少なくカテゴリーが多いマスターズ陸上などに使用することができる。

(13) タイムレース決勝の順位自動決定

長距離等で複数組を行い、決勝を行わないで順位を出したい場合の方法である。最終ラウンドに複数組を作成しておき、全ての組が終了後に結果の印刷を行うと、自動的に上位の8人を選んで印刷される。最終ラウンドの名称は決勝のままでも例えばタイムレース決勝という名称でもどちらでも良いので、わかり易い名称を使用する。

6 公認記録電子申請の方法

静岡陸上競技協会自作のソフトでは日本陸連（業務委託先ベースボールマガジン社）への電子データによる記録申請が可能になっている。ここではその方法と注意事項を記す。

(1) 事前作業

ハードルの高さやハードルの間の距離はまちまちなので、それを種目設定の中の規格で選択できるようになっているので、忘れないように選択して設定する。400m ハードルや3000mSCの場合はハードルの間の距離は同じなので、高さだけを選択する。同様に投てき競技では重さを種目設定の中の規格で必ず選択して設定する。

また走幅跳と三段跳の場合には最高記録で風が2 m/s を超えて追風参考になっている場合には、全ての試技の中で風が2 m/s 以内の記録があれば、公認記録、風の欄にその記録と風を記入する。もし全ての試技が追風参考になった場合には公認記録の欄に0（ゼロ）と記入する。公認記録の欄に0（ゼロ）とすれば印刷の際には公認記録なしと印字される。

メインメニューの申請をクリックして記録公認申請書出力をクリックすると都道府県陸協会長名や申請都道府県陸協名、所在地などを入力して、申請書の表紙を作成することも可能である。また同じメインメニューの申請をクリックしてデータチェックをクリックすると記録や申請に関するデータの不備を表示できるようにもなっている。

(2) 申請電子データ作成

すべてのデータが入力された後に、メインメニューの申請をクリックして陸連申請データ出力をクリックして出力先フォルダ等を指定して実行をクリックすると電子データが作成される。これをベースボールマガジン社の電子申請データベースシステムを使って送信するか、メールでベースボールマガジン社に送信すれば電子申請が完了する。

このようにフィールド競技の場合、最高記録と風力が関係する走幅跳、三段跳の場合には最高記録が未公認の場合には公認記録を入力するだけでも、申請電子データは完成するが、全試技を入力した場合には、申請→陸連申請データ出力の中でフィールド入力シートから試技内容を取り

込むをチェックして取込先を指定すれば、全試技を取り込むこともできる。

7 写真判定装置との接続

(1)接続可能システム

① NISHI 社製 MF700 (Type A、B、V、W) MF1000

② SEIKO 社製 1800HD、2200HD

(2)静岡陸協システムをインストールしたパソコン (入力パソコン) と判定装置との接続

RS232C ケーブル(クロス結線)で、判定機パソコンと入力パソコンを接続する。このとき、入力パソコンが新しいタイプの場合、RS232C 入力端子が無い場合 USB 変換ケーブルを準備する。USB 変換ケーブルを使用した場合には、「コントロールパネル」→「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンタ」→「デバイスマネージャー」→「ポート (COM と LPT)」で COM1 に設定する。

(3)写真判定装置の設定確認

① NISHI 社製 MF700 (Type V、W) MF1000

判定画面の「メインメニュー」→「詳細設定」を開き、送信タイミングを「判定終了後」にし、「判定操作毎」はチェックを外して、設定を終了する。

② NISHI 社製 MF700 (Type A、B)

判定終了後にデータを送ることができず、すべて判定操作毎なので、設定は不要であるが、その場合には静岡陸協ソフトでその組の判定が終了後に、判定終了ボタンを押す必要がある。それ以外にプリンタからデータを取り込む方法がある。

③ SEIKO 社製 2200HD

判定画面の「スコアボード」→「オプション」を開き、以下のように設定してあるか確認する。

a スクリプト … 変更しない

b コードセット … 変更しない

c ラップタイム … 変更しない

d 結果 … 一括送信 常に順位を送信

送信データ量指定 送信データ数 -1 更新時間 0.0

(4)静岡陸協システムの設定・準備

① タイムテーブルで競技時間を入力してある場合は、「判定機」→「順序設定」を開き、「時刻順ソート」をクリックし OK で閉じる。タイムテーブルで競技時間を入力していないときには、「判定機」→「順序設定」を開き、種目を上下して種目順序を設定する。

② 「判定機」→「判定機設定」を開き、判定機の種類を設定し、「判定機」→「接続」をクリックする。

③ 判定順に従い静岡陸協システム画面下に 受信可能 受信種目は (種目 レース名) が表示される。

④ 判定機のテストを行い、データを受信するか確認する。

データを受信すると組の色が灰色から黄色に変わる。右クリックで 記録済 をクリックすると緑色に変わり記録が確定する。「判定機」→「記録済み設定」でレースを選択し、 済を解除 すると黄色に戻り。「判定機」→「データ取得状況照会」でレースを選択し、 済を解除 すると灰色に戻り解除される。

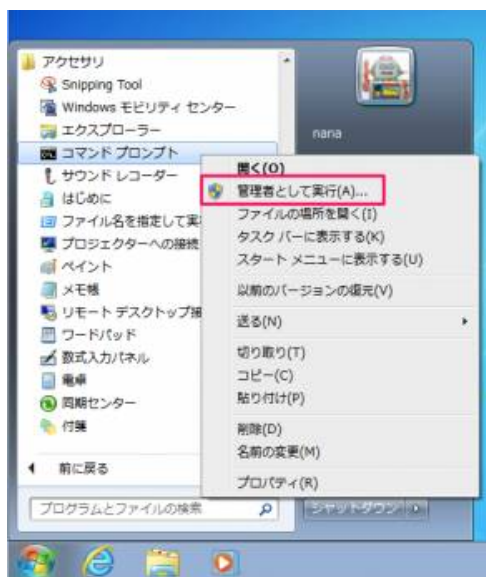
8 静岡陸協ソフトインストール方法

○msi をダブルクリックしてインストール

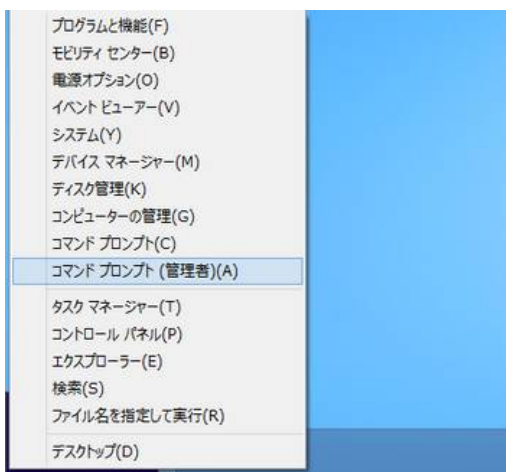
○起動して「vsflex8l.ocx・・・」のメッセージが出る場合は以下の手順を実施

① 管理者モードでコマンドプロンプトを起動する

(Windows7)スタートボタンをクリックし「アクセサリ」の中の「コマンドプロンプト」を右クリック、「管理者として実行」をクリック



(Windows8、Windows10)画面左下にマウスを持っていき、右クリック (Windows キー+x でも開きます)、コマンドプロンプト(管理者)を起動



② コマンドプロンプトで次のコマンドを実行

32 ビット PC の場合

regsvr32 "C:¥Program Files¥上←陸¥vsflex8l.ocx"

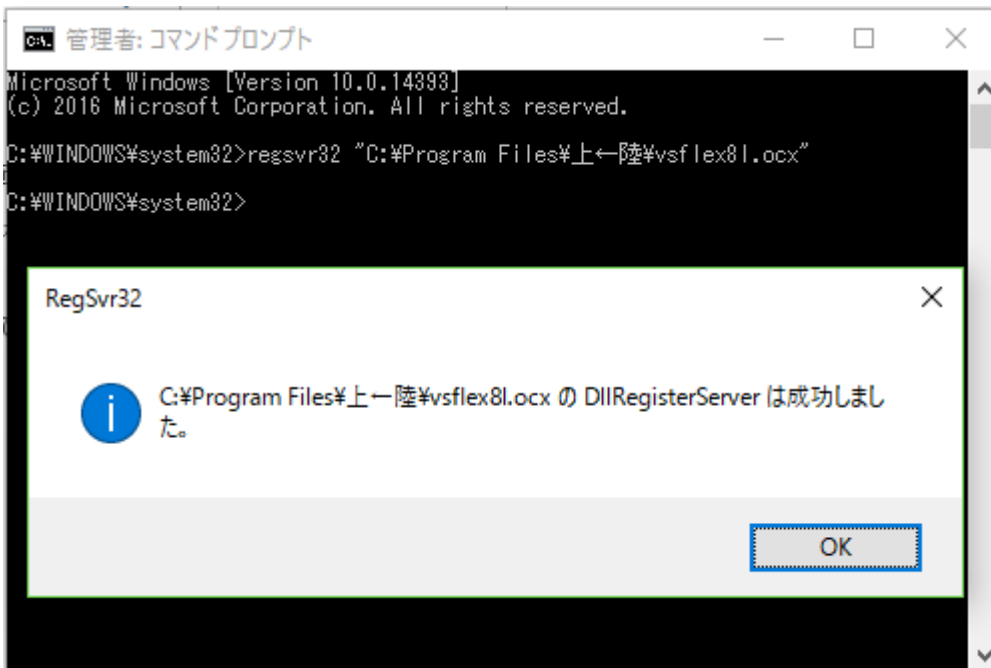
64 ビット PC の場合

regsvr32 "C:¥Program Files (x86)¥上←陸¥vsflex8l.ocx"

(msi インストール時にインストールするフォルダを変更している場合は上記設定とは異なる)

「エル」

以下のように「・・・の DllRegisterServer は成功しました」と出れば OK



9 バージョンアップの方法

このソフトをバージョンアップする場合には、インストールソフトを実行させ、一度削除をクリックし、再度インストールをする。

1.0 フィールド入力シートの使い方

フィールド入力シートの使い方

1. 走高跳、棒高跳用

③並べ替えボタン
順位順、試技順に並べ替えます

①高さの入力
この部分に高さを入力してください
数字だけで入れます
(1m70→170)
(表示では自動的に「m」が入ります)

②試技内容の入力
試技内容は次のように数字で入力します
0…成功(入力後、自動的に「o」になります)
1…失敗(入力後、自動的に「x」になります)
2…パス(入力後、自動的に「-」になります)
3…放棄(入力後、自動的に「/」になります)
4…棄権(入力後、自動的に「K」になります)

最高記録および順位は自動的に計算されて表示されます

順位	選手名	所属	身長	試技	最高記録
1	17348 藤野野村 聖	藤野町	1m70	XO	1m55
2	17330 鈴木 翔也	浜松北済東部中	1m75		
3	17925 高橋 敬志	浜松北済東部中	1m80		
4	11588 藤井 隆平	国南東中	1m85		
5	18220 菅川 謙太	磐前電洋中	1m90		
6	18236 岡崎 高純	磐前電洋中	1m90		
7	18942 立山 功基	磐前電洋中	1m90		

④便利な機能

1つのセルに異なる高さの試技内容を連続して入力しても、自動的に振り分けられます。

例えばこのように入力した場合・・・

属	試								技
府県名	1m55	1m80	1m85	1m70	1m75	1m80	1m85	1m90	
	101101211								

次のように自動的に分けてくれます

属	試								技
府県名	1m55	1m80	1m85	1m70	1m75	1m80	1m85	1m90	
	XO	XXO	X-	XX					

フィールド入力シート使い方

2. 走幅跳、三段跳、投てき用

②並べ替えボタン
順位順、試技順に並べ替えます

③風表示/非表示ボタン
風速の欄の表示/非表示を切り替えます

順位	試技番号	選手名	種目	風速	記録	最高記録	備考
1	1	11981 岩持 真治	1 三島山役中	5m54 +1.2			
2	2	15025 杉山 晋也	2 藤原明誠中				
3	3	15027 宮田浩太郎					
4	4	15031 鈴木 康大					
5	5	15033 藤村 和幸					
6	6	18020 望月龍之介					
7	7	5179 菅木 政茂					
8	8	4207 鈴木 佑亮					
9	9	4207 山口 勲也					
10	10	4202 鈴木 康					
11	11	17084 石井 貴大					
12	12	17085 松本 泰祐					
13	13	14027 野田 博之					

①試技内容の入力
試技内容は次のように数字だけで入れます
5m54→554
(表示では自動的に「+」「.」が入ります)
風速も同様、数字だけで入れてください+1.2→12
(表示では自動的に「+」「.」が入ります)

また無効試技等は次の数字で入れます
1…ファウル(入力後、自動的に「x」になります)
2…パス(入力後、自動的に「-」になります)
3…放棄(入力後、自動的に「/」になります)
4…棄権(入力後、自動的に「K」になります)

最高記録および順位は自動的に計算されて表示されます